

2011 April No.209 百万石蝶談会

翔



能登半島のシルビアシジミ覚え書き

三 上 秀 彦

■プロローグ

能登半島におけるシルビアシジミは、1992年8月18日に旧富来町関野鼻で、小松清弘氏によって採集されたのが最初である(小松、1993)。当時はすでに、県単位での未記録土着種を出すのが困難な時代で、『蝶研フィールド』でこの記録を扱った私は、自分の記録でもないのに、妙に興奮したものだ。

私が当地を訪れたのは、3年後の1995年9月だった。結果は、記す必要がないだろう。あの頃、シルビアシジミが波のかぶるような海岸に生息しているなんて、誰もが思わなかったはずだ。松井氏も何度か現地へ足を運んだと聞かすが、氏をもってしても落ちなかったシルビアシジミが、石川県のリストに加えられなかったのは、当然の帰結だったかもしれない。

能登半島から2回目の発見が報じられた(西山、2009)のは、小松氏の記録から実に17年を経た一昨年(2009年)のことである。再発見者は京都在住の西山隆氏。パイオニア精神の豊富な方で、その成果を綴った、世にいう『西山ノート』のお世話になった方も多いことだろう。そして、氏の慧眼と経験と行動力の結晶が、昨年の多くの成果を導いたのである。

最初の発見、再発見ともに、京都に在住しておられた方が成し遂げたのは偶然であろう。しかし、地元勢として、ぼんくらと推移を眺めているだけというのも芸がない。少なくとも、地の利を活かした分布調査や生態把握は、私たちに課せられた義務のようなものだ、昨年の春に感じていた。

■謝 辞

「何かをしなければいけない」との小さな灯に油を注ぎ始めたのは、タマムシ屋の福富宏和氏だった。なんと、氏のテリトリーである石川県未記録の(ひいき目に見てもチンケな)タマムシ調査を脇に置いて、能登のミヤコグサ探索に出かけ始めたのである。そしてこの探索が、次に紹介する「調査結果一覧」に見るような成果に結びついたことを思うとき、特筆に値する功績だったといわざるを得ない。

あと一人、忘れてはならない人物がいる。一昨年からヒマをもてあまして(と自称する)飼育の達人、細沼宏氏だ。発生期を推測することが難しかった6~7月にも能登の海岸をさまよい歩き、多くの有用な情報を届けていただいた。まだ分布の概要すらつかめていなかった7月時点で、多数の飼育材料を確保され、それが以後の探索時期を推する目安となったのだ。

本文に先だち、本来なら共著とすべきこれら2名の友人に、心より感謝したい。

■調査結果一覧

2010年に得られた分布に関する調査結果をまとめたのが、以下に示す一覧と付図である。これら以外にも確認記録を多数聞いているが、分布的には、今回の確認範囲内である。

表1. シルビアシジミ調査記録(2010年)

日付	調査地(石川県)	記録	調査者	備考
6月1日	羽咋郡志賀町小窪	+	福	新鮮
6月5日	羽咋郡志賀町赤崎海岸	+	福	スレ 南限
6月9日	羽咋郡志賀町赤崎海岸	+	富、福	ややスレ
8月21日	羽咋郡志賀町小窪	確認できず	三	
	羽咋郡志賀町鹿頭	確認できず	三	
	羽咋郡志賀町笹波	1幼虫	三	3齢、寄生
8月24日	羽咋郡志賀町赤崎海岸	+	福、三、吉	スレ
	羽咋郡志賀町小窪	確認できず	福、三、吉	
	羽咋郡志賀町鹿頭	確認できず	福、三、吉	
	羽咋郡志賀町笹波	+	福、三、吉	新鮮
	輪島市門前町劔地	++	福、三、吉	最盛期
	輪島市阿岸川河口付近	確認できず	福、三、吉	ミヤコグサ多数
	輪島市門前町赤神	確認できず	福、三、吉	ミヤコグサあり
	輪島市門前町鹿磯	確認できず	福、三、吉	ミヤコグサあり
	輪島市上大沢町	+	福、三、吉	ややスレ～スレ
8月28日	羽咋郡志賀町笹波	+	細、三	
	輪島市上大沢町	+	細、三	スレ
	輪島市大沢町	+	細、三	新鮮～ややスレ
	輪島市鵜入町	確認できず	細、三	
	珠洲市真浦町	確認できず	細、三	
	珠洲市仁江町	確認できず	細、三	ミヤコグサ多数
	珠洲市鱒崎	確認できず	細、三	
	珠洲市高屋町	確認できず	細、三	ミヤコグサ多数
	珠洲市折戸町	確認できず	細、三	ミヤコグサあり
8月31日	羽咋郡志賀町小窪	確認できず	細、三	
	羽咋郡志賀町鹿頭	確認できず	細、三	
	羽咋郡志賀町笹波	+	細、三	新鮮～ややスレ
	羽咋郡志賀町前浜	++	細、三	新鮮～スレ
	輪島市上大沢町	卵、幼虫各少数	細、三	幼虫は初～2齢
	輪島市大沢町	+	細、三	新鮮
	輪島市赤崎町	+	細、三	新鮮～スレ 北限

9月4日	羽咋郡志賀町赤住	確認できず	福、細、三	ミヤコグサあり
	羽咋郡志賀町福浦港	確認できず	福、細、三	ミヤコグサあり
	羽咋郡志賀町巖門	確認できず	福、細、三	ミヤコグサあり
	羽咋郡志賀町牛下	確認できず	福、細、三	ミヤコグサあり
	羽咋郡志賀町赤崎海岸	確認できず	福、細、三	
	羽咋郡志賀町小窪	+	福、細、三	すべて新鮮
	羽咋郡志賀町鹿頭	+	福、細、三	すべて新鮮
	羽咋郡志賀町前浜	+	福、細、三	新鮮
	羽咋郡志賀町笹波	+++	福、細、三	新鮮～ややスレ
9月18日	羽咋郡志賀町小窪	+	三	新鮮
	羽咋郡志賀町鹿頭	++	三	新鮮～ややスレ
	輪島市門前町皆月	+	三	ややスレ
	輪島市上大沢町	+	三	新鮮～ややスレ
	輪島市赤崎町	+	三	新鮮
10月2日	羽咋郡志賀町小窪	+	細、三	スレ～汚損
	羽咋郡志賀町鹿頭	+	細、三	スレ～汚損
	輪島市上大沢町	+	細、三	ややスレ
	輪島市大沢町	+	細、三	ややスレ～スレ
	輪島市赤崎町	+	細、三	スレ
	輪島市ゾウゾウ鼻	確認できず	細、三	ミヤコグサあり

[記録凡例] 成虫確認数を示す +:1~4頭、++:5~9頭、+++:10頭以上

[調査者凡例] 富:富沢章、福:福富宏和、細:細沼宏、三:三上秀彦、吉:吉村匡平

■南限と北限はどこだろう？

9月4日の記録を見ていただきたい。南より赤住、福浦港、巖門、牛下と、ミヤコグサのみを確認したデータがある。観光地として知られる巖門には遊覧船の発着場があり、そこはシルビアのために存在するような環境であったが、残念ながら、卵や幼虫を含めて、その痕跡を目にすることはなかった。上記の結果一覧では取り上げていないが、これ以外にも9月半ばの調査で未確認とのしっかりしたデータを聞き及んでいる。どうやら、旧富来町の市街地から南側で記録を出すのは容易ではなさそうだ。

北限についてはどうだろうか？ 当該地域が本種の日本での分布北限地域であることを思えば、こちらはより注目を集めるところだろう。現時点で私が生息を確認している北限地は、輪島市赤崎町である。しかし、自信をもって、ここより北にも生息地があると断言できる。とくに輪島市ゾウゾウ鼻あたりは、シルビアシジミのにおいがプンプンなのだ。10月2日に確認できなかったのは、おそらく曇天、強風という気象条件が影響したにすぎないと思っている。

問題は、輪島の市街地を越えて、珠洲市方面にかけての海岸地帯である。この一帯には、良好な生息環境が整っているように見受けられるし、ミヤコグサも普通種である。「いない」のか、「見つかっていないだけ」なのかは、シルビアシジミ探索班の珠洲方面部隊長を務められるという松井氏の今後に期待しよう。あっ、そういえば、前出の福富氏によれば、能登半島の沖合に浮かぶ舳倉島で本種を確認する青写真もでき上がっているらしい。なんでも、一面に広がるミヤコグサ群落で群れ飛ぶシルビアシジミが呼んでいるとの、天のお告げがあったそうだ。そして、「一面に広がるミヤコグサ群落」が存在しているのは、すでに確認されている。

■生息環境

安定的な発生地となっているのは、能登金剛付近などに見られるような断崖に展開した、背丈の低い草つきである。志賀町笹波、前浜、輪島市門前町剣地、門前町皆月、上大沢町(図. 1)などが典型的な産地で、そのような環境の延長として、輪島市大沢町(図. 2)、赤崎町など、海岸部に展開する岩礫地でも発生している。



図1. 輪島市上大沢町の生息環境



図2. 輪島市上大沢町～大沢町の海岸

一方、志賀町赤崎海岸、小窪、鹿頭(図. 3)は、砂浜環境または集落背後の変哲のない海岸が発生地となっている。このような環境では、ミヤコグサが群生していても個体数は少なく、十分に安定した発生環境とはいえないのかもしれない。



図3. 志賀町鹿頭の発生地

さて、右の写真は、2010年9月18日に、とある集落はずれに展開した小さな芝地を写したものである。そこでの成虫確認数は「+++」。天国のような場所であったが、あえて、ここでは地名を明かさないのでおこうと思う。



図4. 集落はずれの小さな芝地

前述の事例では「安定した発生環境」に当てはまらないはずだが、真相やいかに？ 興味のある方は、写真を参考に、ぜひここを探し当てて、状況を確認していただきたい。

■生態的知見を解明せよ

[発生回数]

2010年6月13日に、細沼氏より、強制採卵で産ませた10卵(鹿頭産)をいただいた。それらの飼育経過を示したのが、下表である。

表2. 飼育経過

月 日	6月15～16日	6月21～22日	7月2～5日	7月10～13日
経 過	計3卵孵化	3頭とも3令	蛹 化	1♂2♀羽化

仮に5月下旬～6月中旬が第1化の出現期としよう。上記の卵は第1化の♀から産ませたもので、卵期間をプラスすると、飼育下では約1ヶ月で成虫になる計算だ。野外という条件を加味して、第2化の出現期が7月中～下旬。2010年の夏は猛暑続きだったことから、以後、野外でも1ヶ月程度あれば次世代が出現すると考えられる。つまり、野外では最低でも年3回、2010年に限れば、年4化が十分可能だったと考えられる。

ちなみに、10月2日に確認した成虫はいずれも新鮮ではなく、この時期ではほとんど新たな個体の羽化はないのであろう。

[越冬態]

本種の越冬態については、調べられているようで、実はよく分かっていない。共通するのは「幼虫で越冬」という、漠然とした認識だけなのだ。

10～11月上旬に本種を飼育していると、どんどん成長して高温期に出現するのと変わらないような大きさの成虫が羽化する反面、ごく一部は春型に近いような大きな個体が羽化する。しかし大多数は、2～3令に達した時点で成長が止まり、室内でもあまりエサを食べなくなる。

ものは試して、そのような2～3令期の幼虫を11月中旬に100頭以上、ミヤコグサを植えこんだプランターに放して、ネットをかけて経過を観察した。その結果、……翌春3月上旬で生きている幼虫は1頭も確認できなかった。いったい野外では、「どんな発育段階で」、「どのような場所で」冬を越しているのだろうか？

この命題に取り組むべく、昨年10月に小さな幼虫が確認できた食草を志賀町笹波で数株確認しておいたのだが、自分自身が体調をくずしてしまい、とうとう確認に行くことはなかった。おおいに心残りの結末である。

《 参考文献 》

- 小松清弘 (1993) 能登半島でシルビアシジミを採集. 蝶研フィールド(92):30-31.
西口 隆 (2009) 石川県のシルビアシジミ. フィールドサロン(15):12.

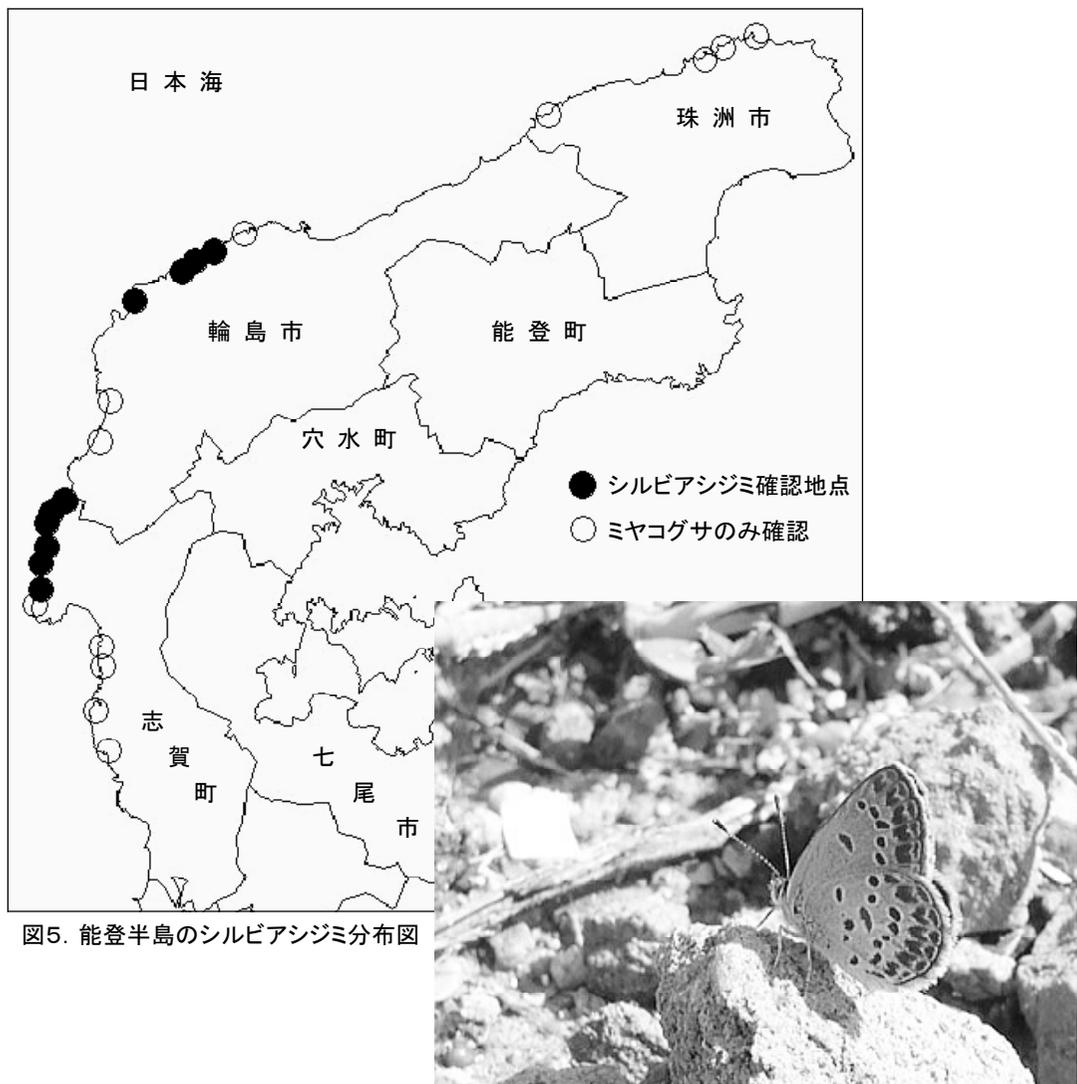


図5. 能登半島のシルビアシジミ分布図

図6. 小石に止まる♀(志賀町小窪:2010年9月18日撮影)

《みかみ ひでひこ 〒920-0269 内灘町白帆台1丁目318番地》

金沢市で再び観察され出したメスグロヒョウモン

松井正人

石川県金沢市では稀な種だったメスグロヒョウモンが、近年再び観察されだしたので報告する。メスグロヒョウモンは、加賀南部や能登北部では、1970年代以前から2000年代にかけて恒常的に観察されているが、金沢市では、1971年の観察以後、1980、1990年代と長期に渡り観察されていなかった。それが、2003年になって32年ぶりに観察され、2007年からは少ないながらも毎年観察されている。

石川県内では、金沢市の観察者人口が最も多く、長期に渡り見落とされていたとは考えにくく、生息数が増加し観察され易くなったと考えるのが自然であり、金沢市の環境が、加賀南部や能登北部に有るメスグロヒョウモンが生息しやすい環境に近づいてきたと考えることができないだろうか。

■メスグロヒョウモンの観察記録

1971年 7月30日	金沢市医王山	1♀	嵯峨井淳郎 (嵯峨井、1973)
2003年 6月21日	金沢市医王山	1♂	吉村久貴 (吉村、2005)
2007年 7月 8日	金沢市犀川ダム	1♂目撃	松井正人
2008年 9月 9日	金沢市野田山	1♂1♀目撃	武藤 明 (武藤、2008)
2009年 6月20日	金沢市医王山北方稜線	1♂	松井正人
2010年 7月17日	金沢市順尾山	1♂目撃	松井正人

《 参考文献 》

嵯峨井淳郎 (1973) 医王山産蝶について. とっくりばち(24・25):3-4.

武藤 明 (2008) 金沢を中心とするチョウ数種の観察資料. とっくりばち(76):51-52.

吉村久貴 (2005) 石川県産蝶類14種の記録. とっくりばち(73):18-19.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

表紙のむし - ヤマトシジミ -

4月から11月にかけて、どこでもまんべんなく観察されるため「最普通種」のまくらことばがぴったりの可愛い蝶。カタバミさえ生えていれば玄関先にも舞い、誰からも言われなくなって久しい言葉、「おかえり」と言わんばかりに出迎えてくれる。

松井正人

金沢市で観察されたクマゼミの抜け殻

松 井 正 人

金沢市環境局では、環境変化の歴史という貴重な宝を後の人に残そうと、定期的にセミの抜け殻調査「金沢市セミのぬげがら調査」を実施している。前回の2005年に行われた調査では、クマゼミの♂抜け殻が1個体見つかり（金沢市大豆田本町の民家の庭で採集され大阪市立自然史博物館で同定）、幼虫の越冬が確認されている。

2010年の調査では、近年に造成された石川県庁と金沢市立明成小学校の植え込みで、クマゼミの抜け殻が、それぞれ1個体見つかった。

2010年8月19日 金沢市鞍月1丁目石川県庁 クマゼミ 抜け殻（1♀） 鞍月小学校児童

2010年9月14日 金沢市瓢箪町明成小学校 クマゼミ 抜け殻（1♀） 明成小学校児童

石川県庁の植え込みは、県庁移転時の2002年に造られ、翌年からクマゼミが毎年のように観察されており、植栽された木と一緒に複数の幼虫が持ち込まれ羽化していると考えられる。明成小学校は1996年に新校舎と同時に植え込みが造られており、それ以後の植栽は無いとの話である。クマゼミの幼虫期は、おおよそ8年（沼田・初宿、2007）とされ、温度が低い環境では発育が遅れ長期化するので、14年後の羽化も考えられない事ではない。

一方、石川県庁と明成小学校の抜け殻は、金沢市で産卵されたものが羽化したとも考えることができる。クマゼミは、まず地上で卵越冬し、梅雨の頃に孵化した後、地中に入り幼虫で何度か越冬したのち羽化する。地中は、地上に比べて温度の変化が穏やかで、冬は気温に比べて温度が高いので、クマゼミにとって最も過酷なのは地上での卵越冬となり、月の平均気温が3.0度以上必要らしい（沼田・初宿、2007）。2000年からの金沢の冬季の平均気温を見ると、3.0度を上回っている年が7回有り、その年は卵越冬できることになる。

金沢の1月2月の平均気温（金沢地方気象台）

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
1月	5.3	2.5	4.5	3.7	3.8	4.2	2.5	5.1	3.8	4.0	4.4
2月	2.8	4.0	5.1	4.4	5.5	3.4	4.0	6.2	2.4	5.4	4.8

これまで金沢市で観察されているクマゼミの成虫は、クマゼミの発生地から成虫が持ち込まれたり、持ち込まれた幼虫が羽化したものと思われていた。今回、移植されてから8年と14年後の木で抜け殻が見つかったことで、金沢で産まれた卵が越冬に成功し、幼虫で何度かの越冬後、成虫になった事も考えられ、もしそうで有れば、金沢にクマゼミが住み着いた事になる。

《参考文献》沼田英治・初宿成彦（2007）都会に住むセミたち。162pp. 海遊舎.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■新岩間温泉の山崎旅館再開か

以前は岩間ヒュッテの所に在ったが、雪崩で倒壊し、現在の場所に移った。白山帰りの疲れを癒したり、採集帰りの一風呂に打ってつけだったが、2006年から休業している。噂では、今年から再開するらしいので、シーズンには営業に協力したい。

■北進するウラナミアカシジミ

能登で初めて見つかったのが、2001年の宝達山。2008年に志賀町田原で見つかり、2010年になって旧富来町の久喜で見つかった。10年で50km程北上したが、元々居たのが見つかっただけかもしれない。

■1月22日新年会

石川むしの会との合同新年会を金沢駅周辺「よし久」で開催。大雪の中、愛知から江口氏、福井から山岸氏の出席もあり、15人が虫への熱い思いを語り合った。

■橋本確文堂の「自然人」740円

「自然人あんどる」コーナーには、野鳥、虫、キノコ、雲のページが有り、毎号写真に文章にそれぞれ腕を競い合っている。虫は小幡氏が担当し、愛好家でもなかなか目にできない場面の映像と流麗な文章で、魅力いっぱい紹介している。

■標本整理におおわらわ

内灘のH氏、春のシーズン到来を間近に迎え、標本の整理に忙しい。ラベルは1枚ずつ手書きなのでなかなか進まず、おまけに飼育個体には2枚つけている。H氏と言えば名うての飼育家で、飼育個体がべらぼうに多く、整理が終わるのはいつ頃だろう。

■福井県のイシガケチョウ

遠い南国のイメージが強いイシガケチョウだが、福井県で何度か観察されている。イタビカズラやイチジクを食樹とし、1994年に高浜町で食痕が確認され、2004年には小浜市で2♂、2010年にも小浜市で1頭採集されている。ナガサキアゲハが石川で複数頭採集されるこの頃である。続くのはイシガケチョウかもしれない。

■線から点、再び線へ

かつては、バスの終点から半日あるいは1日歩く線の採集をし、行く先々で何が飛び出すのかワクワクしていたが、いつの頃からか車でポイントを回る点の採集になっていた。短時間に、あれもこれもと欲張った結果、引き替えに「あ」っ驚く種との出会いが失われて久しいが、そろそろ線の採集ができるゆとりが出てきそうだ。

■分かったつもり

パソコンを叩けば、インターネットを通じて情報が入り、居ながらにして全国各地の虫を見ることができる。映像を見ながら文字情報を読んでいると、つい分かったつもりになってしまうが、本当のことは、現地で陽に照らされたり風に吹かれながら、じかに見て触ってみなければ分からない。

■今年は大雪だった

土清水から末にかけてホシミスジが観察され、公園や道路沿いにはシモツケが植えられている。越冬幼虫は簡単に見つかる目論んだM氏だったが、現地に行くと道路以外は全て雪の下だった。

■春の女神はま～だまだ

3月10日にギフチョウが観察できた年もあったが、今年はまだ固い雪が残り山にも入れない。1日でも早くと願っているが、いつになったら叶うことやら。

■東日本に大地震と大津波

東北地方・太平洋沖地震で被災された皆さんに、お見舞い申し上げます。夢であって欲しかった。大地震のあと尋常ではない大きな津波がおそい、家や車が瓦礫と一緒に流されていった。未曾有の大震災に見舞われた皆さんには、一刻も早い救援と地域の復興を願い、何かできればと思っている。

■今年の春はまだかいな

内灘のH氏、一向に終わらない標本整理の気分転換に、まだ残雪が残るフィールドへ。出かける度に、涙やくしゃみで春を感じていたが、3月12日は頭がかすむくらいに症状が悪化。まだ春を見つけていないが、当分の間は外出を止めるらしい。

■3月15日、種の保存法に5種追加決定

2011年4月1日から「国内希少野生動植物種」に、シャープゲンゴロウモドキ、マル

コガタノゲンゴロウ、ヒョウモンモドキなど昆虫5種が追加され、同日より特殊な人を除き捕獲、採集、譲渡が禁止されるため、モニタリングはできなくなるとされる。

■ 例 会 の 記 録 ■

2月17日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、松井氏からの報告。2010年に金沢市が実施したセミの抜殻調査で、クマゼミの抜殻が2個体見つかり、見つかった木の植栽年度が古いことから、金沢で産卵されたものが羽化している可能性が有るらしい。また、クマゼミとスジアカクマゼミの抜殻の画期的な見分け方を徳本氏が発見し、近く報告されるらしい。

その他の話題は、市街地でホシミスジを探そう、ゼフ越冬卵はそろそろ冷蔵庫、クロコムラマツの紹介、クロコムラは広がっている？、シルビア幼虫越冬できず、シルビア蛹は年内羽化、などなど。

参加は、細沼、大宮、浅地、浅野、松井、井村の6人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

三上秀彦：能登半島のシルビアシジミ覚え書き	1
松井正人：金沢市で再び観察され出したメスグロヒョウモン	7
松井正人：金沢市で観察されたクマゼミの抜け殻	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 209号

Tobu 2011年4月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

